

DWP-35241・35242

屋外
防雨形
壁面取付専用器具

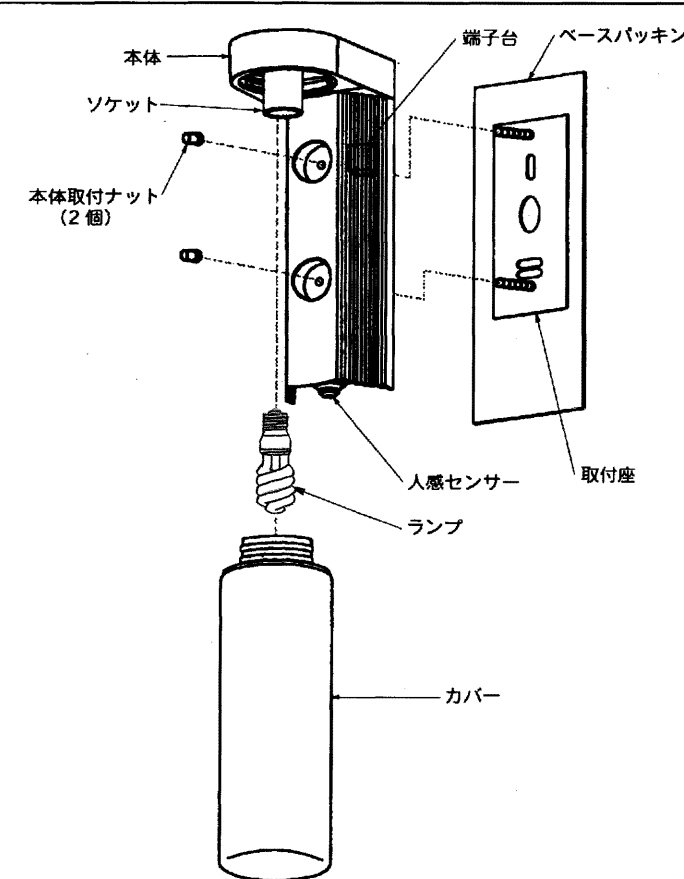
321-01-35241C

仕様

- 屋外壁面取付専用器具です。
- 器具の取付けは各部の名称に図示した方向でご使用ください。
- カバーはガラス製です、取扱いは丁寧に行ってください。
- 防雨形器具です。 ●ON-OFFタイプ人感センサー付です。
- 木ネジ(2本)取付専用器具です。
- 絶縁台は別売です。(DP-30913適合)

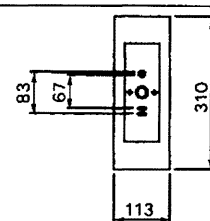
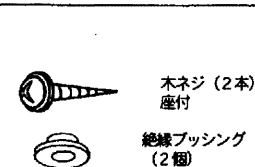
品番	DWP-35241・35242
電源電圧	100V
消費電力	10W
入力電流	0.17A
適合ランプ	電球形蛍光灯 EFD15EL/10×1灯 E-26
器具重量	約1.9Kg
電源接続	端子台

各部の名称



※上図は器具の一部を簡略化しています。

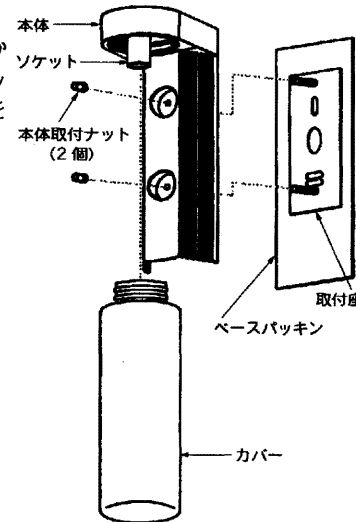
付属部品



取付方法

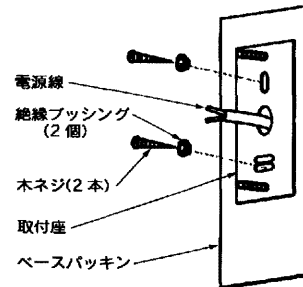
1. 取付座の取外し

- カバーを左側に回して、本体からカバーを取外し本体取付ナット(2個)をゆるめて、取付座を本体から取外してください。



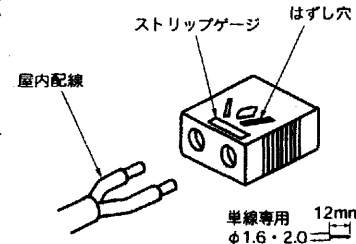
2. 取付座の取付け

- ベースパッキン、取付座の各電源穴に屋内配線を通し、絶縁プッシング(2個)と木ネジ(2本)で壁面の補強材のある位置に取付けてください。
- 取付面に凹凸のある場合は、コーキング処理を施し、平滑にして取付けてください。凹取付面が平らになら凸のまま取付けると防水機能が損なわれることがあります。ない場合は、パッキンを被うように防水用シール材で防水処理をしてください。



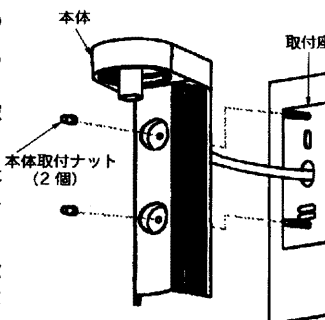
3. 電源の接続

- 屋内配線は適合電線をご使用ください。屋内配線は端子台のストリップゲージに合わせ、指定の長さに段むきしてください。
- 屋内配線は挿入面に直角に奥まで確実に差し込んでください。(一度引っ張り、接続を確認してください。)
- 屋内配線を外す時は、必ず電源を切ってから、ドライバーなどではずし穴を押し、屋内配線を引き抜いてください。
- この時、アースネジを使用して必ずD種(第三種)接地工事を施してください。



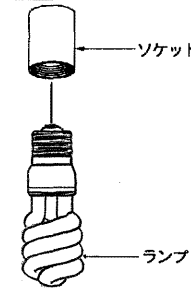
4. 本体の取付

- 本体には方向指定がありますので、本体内面を確認してください。
- 本体取付ナット(2個)にワッシャとパッキンが付いているか確認してください。
- 本体を取付座に合わせて、本体取付ナット(2個)で確実に取付けてください。
- 取付が不確実ですと防水機能が低下し、絶縁不良・器具の落下の原因になります。



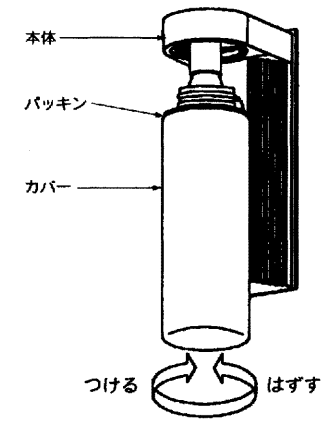
5. ランプの取付け・確認

- ランプをソケットに合わせて、最後まで確実にねじ込んでください。
- ランプをソケットにセットした後、点灯の確認をしてください。



6. カバーの取付け

- カバーのひび割れ、欠け等の異常がないか確認の上作業してください。
- 本体にカバーをセットし、カバー取付ナット(4個)で確実に締め付け固定してください。



7. 使用前の確認

- 取付状態、点灯状態を確認してください。(動作確認方法)
 - ①ブレーカー、室内スイッチをonにしてください。
 - ②Ⅰ)電源投入直後(停電復帰直後)から、約30秒間、周囲の明るさ(照度)に関係なく強制点灯となります。
※センサーが安定するまでの時間で故障ではありません。
 - Ⅱ)その後、約30秒間、テストモードに入ります。周囲の明るさに関係なく人体を検知すると約10秒間照明が点灯するので検知エリアを確認してください。
 - Ⅲ)テストモード終了後、自動的に設定モードに入ります。
- ※出荷時のスイッチ設定は動作設定スイッチが「ON/OFF」、点灯照度設定スイッチが「暗」となっています。
(動作設定スイッチ、点灯照度設定スイッチについては別紙「人感センサーの取り扱いについて」を参照してください。)

ご使用方法

- 通常は室内スイッチをonにした状態でご使用ください。

室内スイッチが「ON」の時	1.周囲が暗くなると消灯もしくは全灯状態になります。 2.人を検知すると全灯状態になります。 3.約60秒間点灯した後、消灯状態に戻ります。 4.周囲が明るくなると消灯します。(人を検知しても照明は点灯しません。)
室内スイッチが「OFF」の時	1.周囲が暗くなっても、人が近づいても、全く反応せず、消灯したままです。

(注) 6h/8hタイマーモードの場合は設定時間全灯します。

- 強制点灯をさせたい場合は、強制オン機能をご使用ください。(別紙「人感センサーの取り扱いについて」を参照してください。)
- 検知範囲は別紙「人感センサーの取り扱いについて」を参照してください。
- ※人感センサーのご使用方法については、別紙「人感センサーの取り扱いについて」を参照してください。

おことわり

- 室内スイッチ・ブレーカーを操作した後、約30秒間は動作が安定しません。(センサーが安定するまでの時間で故障ではありません。)
- 電球の交換、または掃除をする時は、室内スイッチまたはブレーカーを切って、電源が切れたことを確認してから行ってください。
- 検知範囲に犬や猫が入った場合、動作することがあります。(体温を感じて反応するもので、故障ではありません)

- 季節などの温度変化により、検知範囲が多少変化することがあります。(センサーの検知方式によるもので、故障ではありません。)
- 人体検知レンズが汚れたり、ほこりがたまったりすると動作しにくくなります。柔らかい乾いた布などで定期的に掃除してください。(シンナー、ベンジン等の薬品は絶対に使用しないでください。)
- 取付面が充分乾燥してから器具を取付けてください。取付面の乾燥が不十分ですと、器具のメッキ部や塗装部が侵されたり、絶縁不良の原因になります。
- 器具に殺虫剤等をかけないでください。カバー、グローブ等の落下・変質・変色の原因になります。
- 故障と思われた時は、次の点をお調べください。

症状	点検箇所	次の点をお調べください。
自動点灯しない	室内スイッチ	●ONになっていますか?
	電源	●ブレーカーが落ちていませんか?
	照明器具	●電球が切れていませんか? ●適合電球を使用していますか?
	人体検知レンズ	●汚れたり、ほこりがたまっていませんか?

保守・点検

- 1. 6カ月に1回程度、清掃および点検を行うことをおすすめします。点検は、次の項目にもとづいて行ってください。

(1)点検事項

- 正常に点灯しますか。
 - スイッチは、正常に切替りますか。
 - 天井との取付け部、各部品の合わせ目に異常なガタつき、ゆるみはありませんか。
 - 可動部は異常なく動作しますか。
 - 異常な臭い、音、発熱はありませんか。
 - ガラス、プラスチック部品等に、ヒビ、割れ、変形等が発生していませんか。
- ※不明な点および異常を感じた場合は、速やかに電源を切って、販売店、工事店、または当社もよりの支店にご相談ください。

(2)清掃

- 器具やランプにホコリがつくと、明るさを損なうばかりでなく、器具自体の寿命を短くします。

清掃箇所	清掃方法
金属メッキ処理 金属塗装処理	傷つきやすい部分ですから、柔らかい布で1〜2回軽く拭いてください。
アクリル プラスチック	30℃〜40℃の薄めた中性洗剤を使用し、洗剤が残らないようによく水洗いをしてそのまま乾かしてください。乾いた布で拭くと静電気が生じ、ホコリがつきやすくなります。(但し、金属部は除く)
木・竹・籐 布・和紙	こまめにハタキや柔らかいハケ、ブラシでホコリを落とし、目の細かい柔らかな布で軽く拭いてください。
ガラス	中性洗剤またはスプレー式ガラスクリーナーを使用し、スポンジ等で水洗いの後、自然乾燥してください。消しグローブは素手で触ると指紋がつきます。ゴム手袋等を使用してください。

※ガソリン、シンナー、みがき粉、サンドペーパー、たわし等は使用しないでください。

2. 異常時の処置

- 定期点検により発見された不具合のうち、消耗部品(ランプ、電池等)、交換部品(パネル、パッキン等)は、速やかに販売店、工事店にご相談のうえ、適合品と交換してください。
- また、安定器、配線部品等は、定格電圧、常温、1日当たり10時間使用を想定した場合、約8〜10年が交換の目安です。新規の器具と交換するか、または当社もよりの支店にご相談ください。

(裏面もご覧になって正しくご使用ください。)



取扱説明書

保存用

321-01E

工事店・電器店様へのお願い

この取扱説明書は、必ずお客様にお渡しください。

はじめに

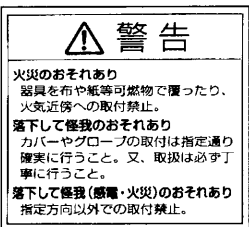
この器具をご使用になる前に、必ず本説明書をよくお読みになり、安全上の注意事項を充分にご理解ください。

安全に関する事項は、本説明書の「安全上のご注意」または器具本体に貼付しているラベルの「**警告**」と「**注意**」のマークによって、特に注意を引くように表示しています。

警告 誤って使用しますと、事故により（例）使用者が重傷を負う危険があります。

注意 誤って使用しますと、使用者が傷害を受けたり、物的損害の発生が想定されます。

警告 **注意** マークの内容を厳守し安全・快適にご使用ください。



安全上のご注意

警告	
	この器具は、一般通常環境(本説明書用語欄参照)の屋外防雨形壁面取付専用器具です。下記の使用環境・条件では、使用しないでください。落下・感電・火災の原因になります。 ●一般通常環境以外の所 ●浴室 ●サウナ風呂 ●湿気の多い所 ●天井面 ●床面 使用環境に適合するか否かの判断が困難な場合は、お問合せください。
	交流電源をご使用ください。また、電源周波数は器具銘板に従って正しく使用してください。感電・火災の原因になります。(インバータおよび白熱灯器具は50Hz・60Hz共用です。)
	電源電圧は、器具銘板または本説明書に記載されている電圧±6%内でご使用ください。ランプ寿命が短くなるほか、部品が過熱し感電・火災の原因になります。
	三相四線、単相三線式の配線下で使用する場合には、負荷のバランスをとり、ブレーカーは中性線が他相線路より後に遮断される仕様のものでご使用ください。焼損の原因になります。
	電動機等を使用する電源回路には、器具を接続しないでください。高調波と過度の電圧変動により、焼損・不点の原因になります。

警告	
	火気等の近くでは、使用しないでください。落下・感電・焼損の原因になります。
	取付けの際は、器具各部にヒビ、割れ、カケ等の異常がないことをご確認のうえご使用ください。落下の原因になります。
	器具本体表示または本説明書に従って施工してください。落下・感電・火災の原因になります。
	屋内配線は、本説明書に従って確実に接続してください。接触不良により感電・焼損の原因になります。
	配線部品を使用する場合は、破損していないことを確認のうえ使用してください。落下・損傷の原因になります。
	取付方向は、器具本体表示または本説明書に従って正しく施工してください。感電・火災・ケガの原因になります。
	木ネジによる器具取付けは下記のように行ってください。誤った施工をしますと、落下の原因になります。 ●取付部の強度が弱い場合には、補強材で補強してください。 ●取付部、補強材の材質は、杉、またはこれと同等以上の強度を有するものをご使用ください。 ●取付部、補強材へのネジ埋込み寸法は、20mm以上となるように取付けてください。 ●器具は補強材の板目、柾目面に取付けてください。 ●既に使用されたネジ穴の再利用は、しないでください。
	器具の改造、部品の変更は行わないでください。落下・感電・火災等の原因になります。
	濡れた手で器具を操作しないでください。感電・故障の原因になります。
	カバー、グローブ、枠、飾り等の着脱は、器具本体表示または本説明書に従って確実に行ってください。落下の原因になります。
	器具に他の荷重をかけないでください。落下・感電・焼損の原因になります。
	器具を布や紙等の可燃物で覆わないでください。また、燃えやすい物を近づけたり、異物を差込んだりしないでください。落下・感電・火災の原因になります。

警告	
	安全機構が付加されている場合は、必ず使用してください。落下・感電・火災の原因になります。
	ランプ交換やお手入れの際は、電源を切ってください。感電の原因になります。
	煙・臭いなどの異常を感じたら、すぐに電源を切ってください。感電・火災の原因になります。工事店、お買い上げの販売店、または当社もよりの支店にご相談ください。

注意	
	電気工事が必要な場合は、電気設備の技術基準に従って有資格者が行ってください。一般の方の工事は法律で禁止されています。
	器具銘板と梱包ケース、および本説明書の品番が一致しているか確認してください。
	器具取付面は、ベースパッキンの大きさ以上の平らな面に仕上げてください。感電・火災の原因になります。
	器具、部品の取付け状態および点灯状態に異常がないことを確認のうえご使用ください。落下・感電・火災の原因になります。
	器具や部品の取扱いは丁寧に行ってください。落下・破損の原因になります。
	ランプの取扱いは丁寧に行ってください。特に着脱の際は、ランプホルダーやランプ支持バネ等で強く弾かないでください。ランプの落下・破裂・破損の原因になります。
	ランプをソケットに装着する際は、器具本体表示または本説明書に従って確実に行ってください。焼損・不点の原因になります。
	照明器具には寿命があり、照明器具の取り替え時期の目安は、通常の使用状態においては、約8～10年です。外観に異常がなくても内部の劣化が進行しています。点検・交換をお勧めします。 器具本体表示または本説明書に従って、6ヵ月に1回定期的に保守、点検を行ってください。また、3～5年に1回は有資格者に点検を依頼してください。点検を行わずに長時間使用しますと、まれに、発煙、発火、感電などに至る恐れがあります。一般的な使用条件に比べて周囲温度が高い場合、点灯時間が長い場合は、寿命が短くなります。※使用条件は周囲温度30℃、1日10時間点灯、年間3000時間点灯。(JIS C8105-1 解説による。)
	点灯中や消灯直後のランプや器具は高温になっていますので、手を触れないでください。火傷の原因になります。

注意	
	部品交換の際は、器具本体表示または本説明書に記載されたもの以外は、使用しないでください。落下・感電・火災の原因になります。
	黒化したり、チラツキがでたランプは、新しいものと交換してください。焼損の原因になります。
	器具、ランプの汚れは、乾いた布等で拭き取ってください。水洗いをしますと、感電・故障の原因になります。

用語

●一般通常環境

下記のような場所を除いた環境をさします。

- 1.周囲温度が20±15℃を超える場所。
- 2.粉じんが多い場所、振動が激しい場所、水中、機械、家具内。
- 3.可燃性ガス、腐食性ガス等の発生する場所。(炭鉱内、海岸地区、温泉地区、重工業地区等)
- 4.器具取付面に結露が発生する場所、手術室等の無菌室。

保管

保管の際は下記の要領で行ってください。

- 購入時と同じ状態で梱包してください。
- 梱包ケースは、ケース表示に従い、正しい方向で保管してください。
- 梱包ケースの上に物を置かないでください。
- 梱包ケースに局部的な外圧をかけないでください。
- 常温(20±15℃)、常湿(65±20%)の場所に保管してください。

廃棄

使用済の照明器具は、所轄の地方自治体が定めた方法にもとづき、適正に処理してください。なお、廃棄の際にはケガをしないよう手袋等をご使用ください。

商品についてのご相談・お問合せ

商品のお問い合わせ、修理、アフターサービスのご相談は、器具本体に貼付している器具銘板で品番をご確認のうえ、お買い上げいただきました販売店、工事店、もしくは下記の相談窓口までご連絡ください。

相談窓口	商品についてのご相談	修理・アフターサービスのご相談 (ダイコーエンジニアリング株式会社)
北海道地区	TEL (011) 561-8067	TEL (011) 561-8152
東北地区	TEL (022) 284-5611	TEL (022) 284-5611
東京地区	TEL (03) 5600-7806	TEL (03) 5600-3445
埼玉地区	TEL (048) 652-1015	TEL (048) 654-0261
横浜地区	TEL (045) 941-6310	TEL (045) 941-6331
中部地区	TEL (052) 821-6276	TEL (052) 821-7105
関西地区	TEL (072) 965-3427	TEL (06) 6731-1286
中四国地区	TEL (082) 247-6711	TEL (082) 246-2162
九州地区	TEL (092) 531-3164	TEL (092) 531-4744

※電話番号は変更になることがありますのでご了承ください。(平成19年4月1日現在)

本社 〒541-0043 大阪市中央区高麗橋 3-2-7 高麗橋ビル
TEL (06) 6222-6240 (代)

(裏面もご覧になって正しくご使用ください。)

お客様へ

- ご使用の前に説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- 照明器具の取付工事は必ず工事店・電器店(有資格者)に依頼してください。

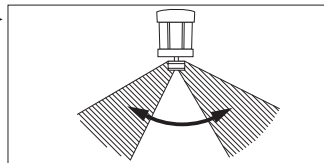
工事店様へ

- 施工の前にこの説明書をよく読み、お客様と打合せのうえ、お客様のご使用に合わせたセンサーの設定にしてください。
- この説明書は必ずお客様にお渡しください。

人感センサー付照明器具の特徴

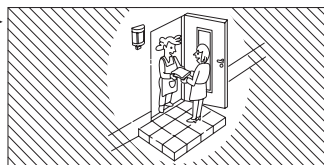
センサー機能

センサーが人を検知すると、ランプが100%点灯します。
人がいなくなると設定された点灯時間(約60秒)経過後、消灯します。
センサー部が可動できるので、照明器具の設置場所やアプローチの状況に合わせて最適な検知範囲を設定できます。
隣家や前面道路などを検知範囲からはずしたい時に便利です。



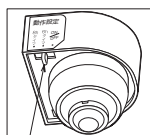
強制ON(連続点灯)

連続して点灯させたい時は壁スイッチをオフにして3秒以内にオンにすると、強制的にランプを100%点灯できます。
解除するときは一旦壁スイッチをオフにし、5秒以上経過後、再びオンにするとセンサー動作に戻ります。



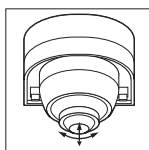
センサー各部の名称

〈左側〉



動作設定ツマミ

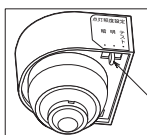
〈正面〉



検知部

全方向に約20°ずつ可動しますので検知範囲の調整ができます。

〈右側〉



点灯照度設定ツマミ



動作設定ツマミを動かすことで「ON/OFF」、「6hタイマ」、「8hタイマ」の3つのセンサーモードが設定できます。



点灯照度設定ツマミを動かすことでセンサーが動作する明るさの設定と検知エリア確認(テストモード)ができます。

注) エリアマスクを取付けることで、感知エリアが調節できます。
必ず感知エリアを確認してください。
(P.2を参照してください。)

**エリアマスク
貼り付け位置**

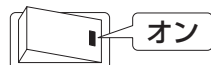
初めて使う時・・・テストモード(検知範囲を確認する)

テストモードにすると、昼間・夜間に関係なくセンサーの検知範囲に人が入ればランプが約5秒間100%で点灯し、その後消灯します。

1. センサー右側の点灯照度設定のつまみを「テスト」に合わせる。



2. 壁スイッチを「オン」にする。

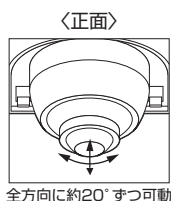


注) 壁スイッチを「オン」にした直後は、ランプが約30秒間100%で点灯(強制点灯)しますが、異常ではありません。

強制点灯(約30秒)後、テストモードになります。

周囲の明るさに関係なく、人体を検知すると約5秒間ランプが点灯するので検知範囲を確認してください。

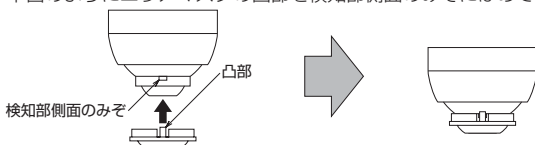
3. センサーの検知部を動かし、検知範囲を決める。



注) 検知範囲の近くに人や車を通る道などがあると、センサーが検知し、ランプが点灯する場合があります。
この時はセンサーの検知部に「エアマスク」を取り付けて、検知範囲を調整してください。

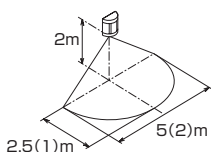
〈エアマスクの取付方法〉

下図のようにエアマスクの凸部を検知部側面のみぞにはめてください。

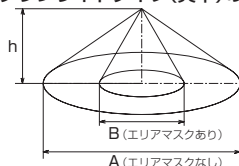


〈センサーの検知範囲〉 () : エアマスクを取付けた時

可動角度0°(真下)の場合：高さ2m



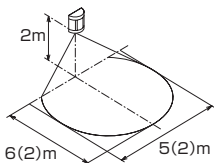
ダウンライトタイプ(真下)の場合



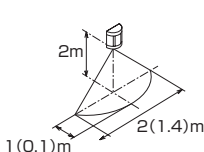
A : エアマスクなし
B : エアマスクあり
単位(m)

h	A	B
2	5	2
2.5	6	2.5
3	7	3

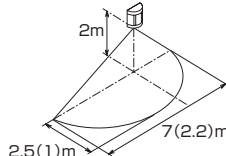
前方へ20°動かした場合：高さ2m



手前へ20°動かした場合：高さ2m



横へ20°動かした場合：高さ2m



4. センサーが動作する明るさを決める。



センサー右側の点灯照度設定のつまみを「暗」又は「明」に合わせる。

夜暗くなりかけてから点灯させたい。

また、明け方早くに消灯させたい。(約15ルクス以下)

→「暗」に合わせてください。

夕方のやや明るい時から点灯させたい。

また、明け方に消灯させたい。(約45ルクス以下)

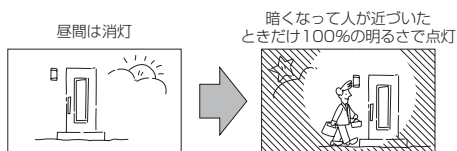
→「明」に合わせてください。

こんな使い方ができます

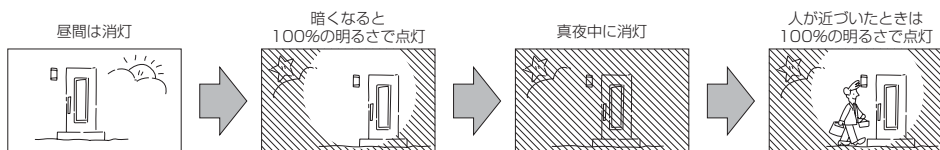
壁スイッチをONの状態でご使用ください。

「動作設定」のツマミを動かすことで「ON/OFFモード」、「6hタイマーモード」、「8hタイマーモード」で使うことができます。又、壁スイッチの操作で「強制ONモード」もできます。

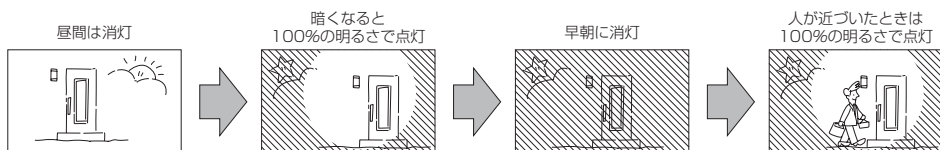
人が来たときだけ明るくしたい → ON/OFFモードの設定へ



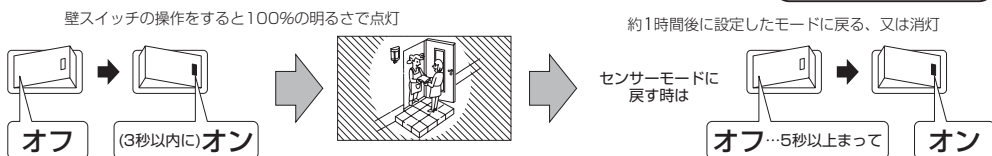
暗くなると自動点灯+夜中は省エネ+人が来たときは明るく → 6hタイマーモードの設定へ



暗くなると自動点灯+早朝まで点灯して防犯+人が来たときは明るく → 8hタイマーモードの設定へ



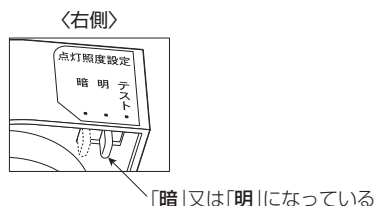
好きな時に照明を点灯させたい → 強制ONモードの操作へ



動作設定方法

1. センサー右側の「点灯照度設定」のツマミが「暗」又は「明」になっていることを確認する。

注) 「暗」、「明」の設定は、前ページの「初めて使う時」をお読みください。



動作設定方法

2. 「動作設定」のツマミを確認する。

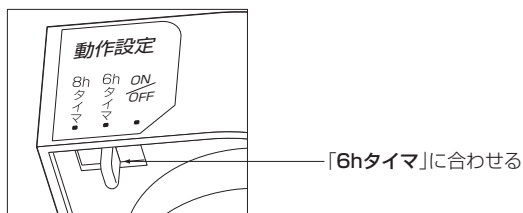
ON/OFFモードの設定

「動作設定」のツマミを「ON/OFF」に合わせる。



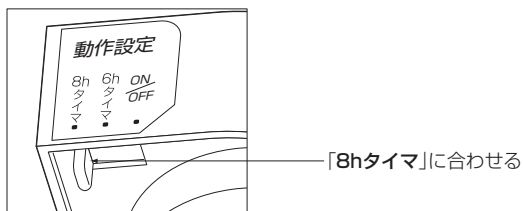
6hタイマーモードの設定

「動作設定」のツマミを「6hタイマ」に合わせる。

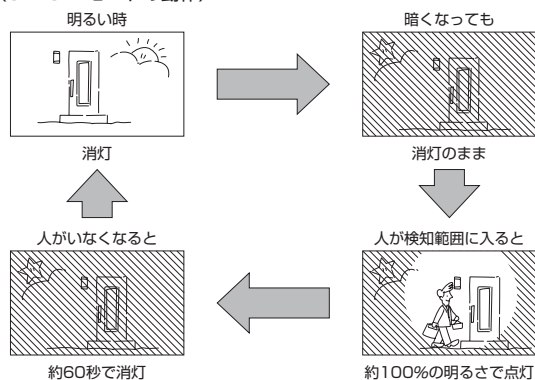


8hタイマーモードの設定

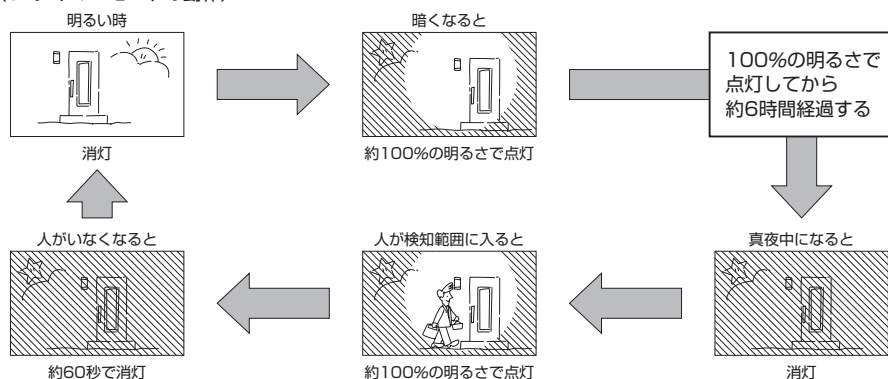
「動作設定」のツマミを「8hタイマ」に合わせる。



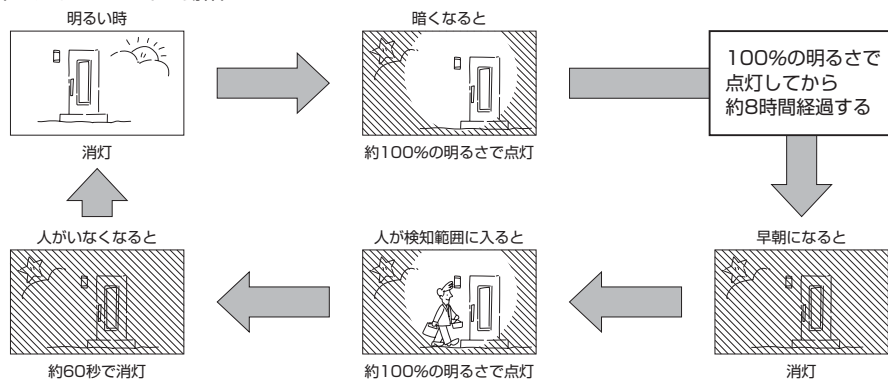
〈ON/OFFモードの動作〉



〈6hタイマーモードの動作〉



〈8hタイマーモードの動作〉

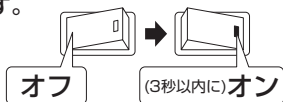


1. 壁スイッチが「オン」になっている。



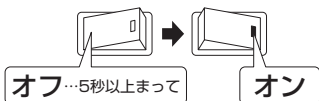
注) 壁スイッチが「オフ」の時は、「オン」にしてください。この時、約30秒間100%点灯します。(故障ではありません。)

2. 壁スイッチを「オフ」にして、約3秒以内に「オン」に戻す。



注) 強制ONモードは、人の有無、昼間・夜間に関係なく、ランプは約1時間100%点灯します。その後は設定したセンサーモードに戻ります。

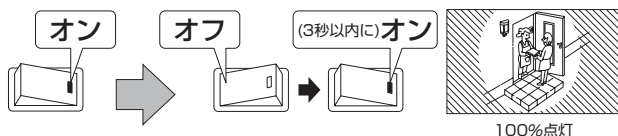
3. センサーモードに戻るときは、壁スイッチを「オフ」にして5秒以上たってから「オン」にする。



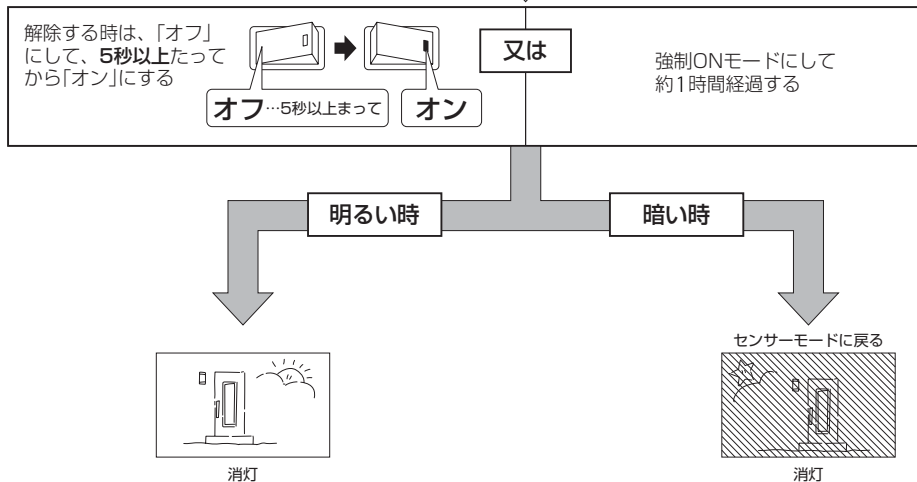
注) 壁スイッチの「オフ」時間が5秒より短い場合は、強制ONモードが継続(100%点灯が1時間)されますので、必ず5秒以上「オフ」にしてから「オン」に戻してください。

〈強制ONモードの動作〉

強制ONモード



強制ONモード解除



注) 壁スイッチを「オン」にした直後は約30秒間100%点灯します。(故障ではありません。)

修理を依頼される前に

- センサーの動作がおかしい時は下記を参考に点検を行ってください。
- もし、正常に戻らない時は、壁スイッチを「オフ」にして5秒以上たってから、「オン」にしてください。
- 処置をした後でも異常があるときは必ず電源を「オフ」にし、お買い上げの販売店、工事店、または照明器具の取扱説明書に記載の当社相談窓口までご連絡ください。

現 象		考えられる原因		処置方法
ランプが点灯したままで消灯しない		壁スイッチを「オフ」にして約3秒以内に「オン」にした。(「強制ONモード」)		「強制ONモード」になっています。壁スイッチを「オフ」にして5秒以上たってから「オン」にしてください。
	明 け 方	「点灯照度設定」のツマミが「明」になっている。		朝、明るくなる頃までセンサーが動作する設定になっています。「点灯照度設定」のツマミを「暗」にしてください。(→「初めて使う時」をご参照ください。)
		「動作設定」のツマミが「8hタイマ」になっている。		「動作設定」のツマミを「6hタイマ」にしてください。
	明 る い と き	照明器具の取付場所が薄暗い。(昼間でも暗い時がある。)		「6hタイマーモード」「8hタイマーモード」でご使用の時は、昼間でも周囲が薄暗い時や曇り、雨などで周囲が暗くなった時は、まれにセンサーが夜と勘違いしてランプを点灯させることがあります。壁スイッチを「オフ」にして5秒以上たってから「オン」にしてください。
		昼間でも、曇り、雨などで周囲が暗くなった。		
		センサーの検知部を傘、手などで覆ってしまった。		
検知範囲に人がいるのに点灯しない	タ 方	センサー右側の「点灯照度設定」のツマミが「暗」になっている。		暗くなりかけてからセンサーが動作する設定になっています。「点灯照度設定」のツマミを「明」にしてください。(→「初めて使う時」をご参照ください。)
	暗 い と き	ランプが切れている。		新しいランプに交換する。(→適合ランプは照明器具の取扱説明書又は、照明器具に貼付のランプシールをご参照ください。)
		ランプが緩んでいる。		ランプを締め直す。(→照明器具の取扱説明書をご参照ください。)
		壁スイッチがオフになっている。		壁スイッチをオンにする。
		センサーの検知部に他の照明器具の光が当たっている。		1. センサーの検知部に当たる光を遮断してください。 2. 検知範囲内の照明器具を取り除いてください。
		センサーの検知部が汚れている。		センサーの検知部の汚れを柔らかい布で拭き取ってください。

現 象	考えられる原因		処置方法
検知範囲に人がいないのに点灯する	➡	電源を「オン」にした直後。 又は、停電から復帰直後。	➡ 電源を「オン」にした時は、 約30秒間100%点灯します。
	➡	暗いとき 検知範囲内に人以外の熱源がある。 例：自動車の熱やヘッドライト 近くの道路の通行人 犬や猫などの動物 風などでよく揺れるもの (洗濯物、旗、植木など) 他の照明器具 エアコンなどの吹出口からの風 強いノイズ(無線ノイズなど)	➡ 1. 検知範囲を調整する。 (→初めて使う時をご参照ください。) 2. 熱源を取り除く。 検知範囲内に左記の例のようなものがあれば、周囲の温度変化を検知し、センサーが動作することがあります。
検知範囲に人がいるのに消灯する	➡	センサー右側の「点灯照度設定」のツマミが「テスト」になっている。 (約5秒間100%点灯し、その後消灯する。)	➡ 「点灯照度」のツマミを「明」又は「暗」にしてください。 (→「初めて使う時」をご参照ください。)
	➡	暗いとき 検知範囲内で人が静止している。	➡ 静止している人は検知できません。
検知範囲が狭い	➡	暗いとき 雨の日に傘などで顔や手が隠れている。	➡ センサーは温度変化を検知するため、 左記の場合は検知しにくくなる ことがあります。
		マフラーで顔を覆ったり手袋をしていて肌の露出部分が少ない。	
		夏の暑い日などで周囲温度と人の温度差が少ない。	
		器具(センサー)に向かって正面から近づいている。	
			➡ センサーの特性上、正面から近づく と検知しにくい時があります。 センサーの検知部を少しだけ左、 又は右に回転させてください。

クリーニング方法

- 乾いた布で汚れを拭き取ってください。汚れが落ちにくい場合は、よく絞った布で拭き取り、最後に乾いた布で拭き取ってください。
- クリーニング後、動作を確認してください。以前と動作が違った場合、再度、設定してください。



直接、センサーに水をかけないでください。故障の原因となります。